

特集「カブトムシの森 新五ヶ年計画」

これからの森会保全活動

会が発足して今年で 17 年目を迎えます。私たちが保全作業をしてきた「カブトムシの森」と「アカマツ林」は以前と比べると明るい林層になってきたと思います。一部アカマツ林ではマツノザイセンチュウの被害に遭い 50～60 年生のマツの大径木が何本も伐採、薬剤処理されました。

この環境の変化で今まで実生苗が無かった場所でも小さなアカマツが確認できました。アカマツ林の林床の草刈や地かきを行い、成木の生育と共に次の森を担う実生苗が大きくなっていくものと思います。

カブトムシの森は一部を残して伐採による保全作業が終わりに向かっており、今後は現状を維持するための草刈りや除伐に加えて、自然観察の森としてより多くの植物や昆虫を観察してもらえるように環境の多様化を図っていきます。

即ち、樹木の複層化、下草の管理、実生苗の育成などです。

「目指せ！昆虫パラダイス」

（“わざわざ” 行きたくなる森づくり）

カブトムシの森は自然観察センターから徒歩 15～20 分の道のりのため 2～3 時間のイベントでは移動時間を考えると観察フィールドとしての利用は難しい。

センター行事での昆虫観察会は自然観察センター周辺で実施されてきている。

カブトムシの森保全活動の歴史は自然林→松林が点在する萱場→スギ・ヒノキの人工林→野鳥の食餌木の植栽→クヌギやコナラを植栽してカブトムシの森となった。林床は戦後の植林の

期間が長く、カブトムシの森を整備した 20 年ぐらい前は人工林の林床植物のフユイチゴやシダなどが確認できる程度であった。

カブトムシの森を整備する以前の C 地区は、野鳥の食餌植物となるビワ、クロガネモチ、クスノキ、モモ、ナンキンハゼ、リョウブ、モミジ・ツバキ・サザンカなどの園芸種が植栽されていた。

森を育てる会の発足当初は前記のような疎林の下草刈が主な作業であった。その当時はカブトムシやクワガタ類はもちろんのこと昆虫が少なく、森の保全活動の他は野草や伐採木を使ったクラフト、炭焼きなども頻繁に行われていた。

私が入会した当時はクヌギが生長し、枝葉を延ばし、隣の木と光を求めてせめぎあっており、以前からこの場所にあった木と実生から成長した常緑樹、植林したクヌギ、コナラなどの木が枝葉を広げ、冬季は見通しがきくが夏緑樹が葉を広げる 6 月には、樹木が生き茂ったうっそうとした森の中の遊歩道と言う感じだった。

カブトムシの森での作業の帰りに森の遊歩道を見下ろすと、現行の五ヶ年計画で掲げた「多くのいきものが暮す明るい森」という目標へと着実に近づいてきていることが実感できる。

現行の五ヶ年計画（2009年）

基本理念

「里山に代表される二次林（具体的にはクヌギ・コナラを主とした林）の自然環境を復元する作業を行い、カブトムシに象徴される昆虫や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す」

要 点

A地区の保全目標：

(仮称)イキイキ生き物観察ゾーン

- ・花や昆虫を楽しめる森づくり、大径木を中心としたクヌギの森づくり

B地区の保全目標：

(仮称)木漏れ日と水辺のゾーン

- ・水遊びができる親水整備、林道から落葉広葉樹林らしい景観を楽しむ（林道沿全体）。
- ・湿地を好む生物の環境と景観の維持

C地区の保全目標：

(仮称)ドングリの木と親しむゾーン

- ・クヌギやコナラなど、さまざまな落葉樹・草本が生育する「里山」的な明るい森づくり、森へのいざないづくり（入りやすい進入路や好奇心をくすぐるようなサインの整備、森や森づくり等に関して遊びながら学べるガイドやサインの充実）

新五ヶ年計画(2014-2018)

（2013/05/11 カブ森保全ミーティングより）

基本理念

「クヌギを主体とした落葉広葉樹の森を育成、維持し（具体的にはクヌギ・コナラを主とした林の自然環境を復元する作業を行う）カブトムシに象徴される昆虫や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す」

要 点

A地区：テーマ「クヌギの大径木を育てる」

- ①クヌギの大径木を育成し、観察木、伐採対象木を選定する。
- ②明るくなった林床の植生回復促進に向けて、園内の類似した環境地から表土を導入することを検討。

③調査、観察区域の整理。

④観察路の整備（南西角からの入口）と飼育小屋の撤去（管理事務所との調整）

B地区：テーマ「常緑樹を除伐し、明るい森づくり」

①小川の親水性を高めるための除伐を進め、橋、飛び石の設置。

②遊歩道東側のヤブツバキの管理、飼育小屋の撤去、大径木の除伐の推進。（管理事務所との調整）

③湿地は現状維持とし、繁茂するイタドリなどを排除するにとどめる。

C地区：テーマ「クヌギの萌芽更新が見られる林」

①萌芽更新の計画的推進と植林・育林（伐採後のギャップにクヌギ、コナラの植林を推進する）

②新入口に伴う進入路の整備。

③スギ、ケヤキ、クスノキ、ナンキンハゼ、ユリノキといった高木の伐採。（管理事務所との調整）

④明るい森とするための東側斜面の中低木の伐採とヤードの設置。

この新五ヶ年計画の方針やテーマをもとにそれぞれの地区に落とし込み詳細については、世話役と調整しながら、作業を進めていくものとする。

カブトムシの森新五ヶ年計画 世話役 鎌田隆

